

イビサ島の旧市街地ダルト・ヴィラの上に建つイビサ城からの景色。掲揚旗は、左からイビサ島評議会、スペイン王国、バレアレス諸島自治州政府。



写真報告

スペイン・バレアレス諸島

海外離島調査より

日本離島センターでは2025年11月2日から9日までの8日間、「持続可能な観光業と地域資源を活かした農畜産業振興策」をテーマに、地中海西部に位置するスペイン・バレアレス諸島(Islas Baleares)を対象とした「海外離島調査」を行なった。上村俊之愛媛県上島町長をはじめ離島関係市町村職員など6人が参加した。

バレアレス諸島(総面積4,992km²)はマヨルカ島、メノルカ島、イビサ島、フォルメンテラ島の4つの有人島と複数の無人島で構成されている。フォルメンテラ島以外の3島は国際空港を有し、スペイン本土およびヨーロッパ各都市と各島間を空路で結んでいる。このほか、バルセロナ、バレンシアなどスペイン東沿岸の都市との間に多数の定期船が就航している。

同諸島全域は、バレアレス諸島自治州が管轄している。有人4島のムニシピオ(日本における市町村に相当)は合計67存在し、地域の行政業務を自治州政府と連携して実施している。特徴的なのは各島にひとつずつ島嶼評議会(Consell Insular)が置かれている点で、住民選挙によって選ばれた評議員により運営されている。

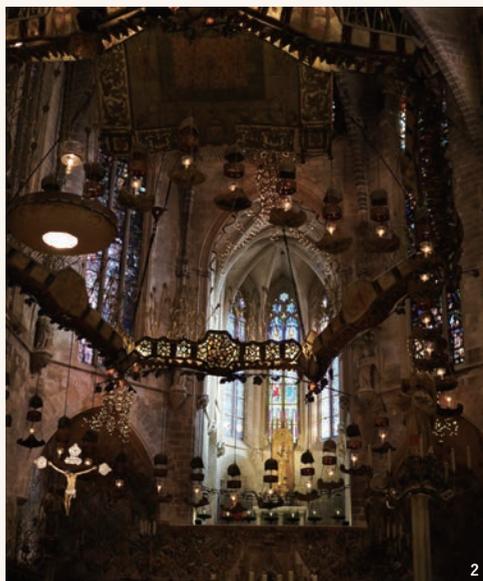


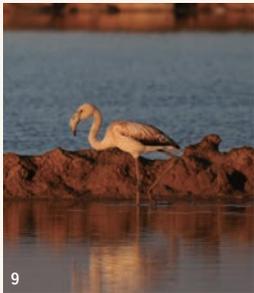
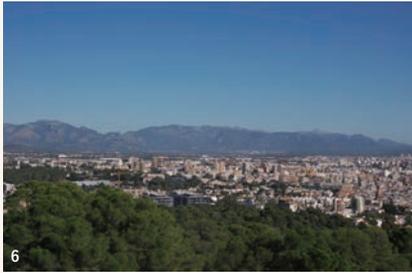
マヨルカ島 Mallorca

バレアレス諸島最大の島。面積3,640.1km²、人口約92万人。マヨルカ王国が13世紀に建国された歴史があり、島の西部に位置する州都パルマ・デ・マヨルカ(パルマ市)にはレコンキスタ(国土回復運動)の時代を物語る古い建造物・史跡が随所に残る。

同市のパルマ港には数多くの大型クルーズ船や貨物船が発着する。

島北部の「トラムタナ山脈の文化的景観」が2011年に世界文化遺産に登録。





1,2 パルマ大聖堂。尖頭アーチやステンドグラスが特徴的なカタルーニャゴシック様式で建築された。1229年着工、1601年完成。1900年代初頭になされた修復には、アントニ・ガウディも関わった。3 パルマ市庁舎前の通称「怠け者のベンチ」にて。舎内にはマヨルカ島にゆかりある著名人の肖像画が飾られた評議会室などがある。4 バレアレス諸島自治州政府のメルセデス・ガリド・ロドリゲス(Mercedes Garrido Rodriguez) バレアレス諸島議会第2副議長(中央)をはじめ、外務部長、商業局長、水産局長、港管理担当者、商業部長とオーバーツーリズム対策や地域産業の振興施策について意見交換。5 「美しい眺め」を意味するベルベル城。王室の離宮や刑務所として使用された歴史がある。訪問時は、地元の子どもたちも見学に来ていた。6 ベルベル城から眺める島北部の世界文化遺産地域「トラムンタナ山脈」。7,8 島南部の塩田「サリナス・デ・トレンク」。天日干しにより製造される塩は3ランクに分かれ、最高級のは「フロー・デ・サル(塩の花)」と呼ばれる。9 塩田周辺は、清浄な海水を確保するために湿地が保全されており、フラミンゴなど渡り鳥の飛来地となっている。

メノルカ島 Menorca

バレアレス諸島で2番目の面積を誇る島。面積701.8km²、人口約9万7千人。
マヨルカ島と併せてジムネシアス諸島(Islas Gimnesias)として細かく区分され、
カタルーニャ地方やイスラム・アラブ圏の影響を受けた、独自の文化がみられる。

農畜産業が盛ん。1993年にユネスコエコパークに指定、
2023年に「タラヨ期のメノルカ島の先史遺跡群」が世界文化遺産に登録された。



10



14



13



11



12



15



18



17



16

10 最高地点のトーロ山(358 m)からは農地が広がる島内を一望することができる。11 酪農を営む農場「ピニルベット」にて。伝統的な製法で作られる特産品「マオンチーズ」。12 メノルカ島はマヨネーズ発祥の地とされる。島産の卵と塩、オリーブオイルを原料とする手づくりの製造行程を体験。13 バレアレス諸島の有人4島の農業組合が共同で営む「ファーマーズ&コー」では、ジャムやワインなど同諸島の地場産品を豊富に取りそろえる。14 島西側に位置する旧首都シウタデラ。歴史ある石畳の細路地には、カフェや宿が軒を連ねる。15 世界文化遺産「タラヨ期のメノルカ島の先史遺跡群」の構成資産。巨大な2つの石をT字型に組み合わせた「タウラ」は、紀元前5世紀頃に作られたとされる。奥に見えるのは石積み建造物「タラヨット」。16 島の歴史や自然について解説するホセ・シモン・ゴルネス・ハチェロ(José Simón Gornés Hachero)メノルカ島評議会第2副大統領(環境・生物圏保護区・地方協力担当)。17 農業組合「サ・コーポラティーバ」のアントニア・ボスチ(Antònia Bosch)社長。18 潟湖周辺に湿地が広がるラ・アルブエラ・デス・グラウ自然公園。ヨーロッパウナギなど希少な動植物の生息地。レンジャーが公園内を巡回している。19 腺ベストの侵入を防ぐため、19世紀に島の玄関口マオン港沖の小島・ラザレット島に建設された隔離施設。メノルカ島に入る人や貨物が一定期間留め置かれた。司祭が信者に直に接触することなく洗礼を行なった教会などが残る。



19

イビサ島 Ibiza

面積571.6km²、人口約15万4千人。経済の中心は観光業。

ビーチリゾート、ナイトライフ、音楽イベントなどを目当てに、シーズンには世界中から観光客が訪れる。

地中海に特徴的な海藻・ポシドニアの群落や古代の海洋民族・フェニキア人の遺跡があることで、

1999年に「イビサ、生物多様性と文化」が世界複合遺産に登録された。



21



22



20

20 ルネサンス時代にフランスとオスマン帝国の侵攻を防ぐために築かれた城壁都市ダルト・ヴィラ。21 島固有のトカゲ「イビサカベカナヘビ」の保護を訴える看板。島外からのオリーブの木に紛れて侵入した外来種のヘビに捕食され、個体数が減少している。22 サラ・ラモン・ロセージョ(Sara Ramon Rossello) イビサ島評議会第3副議長(文化・教育・遺産大臣)。23 多数のヨットが停泊するマリナー・イビサ。シーズンには多くの観光客が訪れる。24 島のナイトライフを象徴する老舗クラブ「パチャ」。調査時は冬季休業中で、グッズショップを訪問。25 市場に並ぶ新鮮な魚。魚体につけられたタグは、イビサ島の漁師によって漁獲され、適切な鮮度保持、衛生管理のもと市場まで4時間以内に持ち込まれたことを示している。26 アカザエビやムール貝など、地元の水産物を豊富に使用したバエリア。27 世界複合遺産の構成資産のひとつ、紀元前8世紀～前6世紀にフェニキア人が居住した「サ・カレタ遺跡」。出土品のレプリカなどを展示する博物館が隣接。



24



23



26



25



27

フォルメンテラ島 Formentera

バレアレス諸島で最も小さな有人島。面積83.2km²、人口約1万2千人。イビサ島と併せてピティウーザ諸島(Islas Pitiusas)として細かく区分され、バレンシア地方などの影響を受ける。イビサ島からの定期船が一日に約40便就航しており、所要時間は約30分。イビサ島との間の海域に広がる「セス・サリネス自然公園」が豊かな海洋生物の生息地として世界複合遺産の構成資産となっている。



28 景勝地エル・ミラドからの眺望。島の最高地点は153mで低平な島である。29 島の行政機関が集まるサン・フランセスク地区。教会の周りで遊ぶ子どもたち。30 イビサ島とフォルメンテラ島を結ぶ定期船。両島間には複数社の船が就航している。31 島東端の崖上に位置するラ・モラ灯台。2019年に島評議会が運営する博物館が開館した。32 プンタ・プリマの塔。1762年に建てられた島最大の防衛塔。33 島北部のビーチ「ブラヤ・デ・セス・イレテス」。夏場は多くの観光客が海水浴を楽しむ。セス・サリネス自然公園の一部で、ボシドニアの保護活動も実施されている。

